

と き 2019年 8月24日(土)～26(月)

コース 新穂高温泉～西穂山荘(泊)～独標～ジャンクションピーク～チャンピオンピーク～西穂高岳～赤岩～間の岳まで往復

参加者：加藤秀子、星 千代

ジャンダルムを目指して



新穂高の無料駐車場に止めたくて朝5:00に富士を出発した。が、無料駐車場を過ぎてしまって「イヤ」という事で有料に入れる事になった。が、8月最後の土日という事もあって車は続々とくる。やっぱり早く来て良かったのかも。

第一、第二の新穂高ロープウェイは片道@1,600
荷物は6K以上@300 計1900の支払い。
私は12K、星さん10K、重たいねえ・・・。

臨時に乗り込み一番上の西穂高口に10:00着。早すぎて山荘に昼前に着いちゃうね・・・ゆっくり行こうと言いつつも11:30には山荘に着いてしまった。

山荘周辺は、イブキトラノオ、トリカブトの群落。テント場はこの時間で既に満杯。テントの周りには歩けないほど所狭しと並んでいた。

手続きを済まし、外でお昼をしていたら私の隣で「何もすることがないから飲むしかない」とジョッキビールを5杯あけている単独男性がいた。

星さんの隣では 33歳の単独女性がテント泊で「荷物は15K以上ある。こんな重い荷物で明日ジャンダルムに行けるかなあ」と不安そうな顔で話しかけてきた。なかなかの愛嬌(^o^)/で好感が持てる。皆、行き先はジャンダルム。無事通過して穂高岳小屋で乾杯のビールを皆で飲もうと意気投合。

寒い中フリースを着こんでPM4:30まで談笑。



夕食は5:30。ハンバーグをメイン。

私的には豪華な夕食で汁とご飯を2杯お替わりして大満足で6:30には就寝。

部屋は女ばかりの14人部屋。足の踏み場もない。



入口に寝ていた私は何時踏まれるかとヒヤヒヤもん

早朝、3:00からザワザワ音で目が覚めた。昨夜早く寝たので寝覚めがいい。星さんを起こして、ご飯はお腹が空いたところで食べればいいと、3:30には出発。

ヘッドランプの明かりで丸山を目指す。森林限界を過ぎてハイマツ帯になると西穂独標を登る先行者の明かりがチラチラ見え隠れし何故か心強く感じられた。



穂高黎明



黙々と登って穏やかな丸山山頂をだいぶ過ぎた辺りで空が白み始めた頃、風も出始め急に肌寒くなってきた。

この先から岩の連続。三点支持で慎重に足を運ぶ。独標、ピラミッドピーク、チャンピオンピークと危ないところは星さんと距離をあけず、常に声掛けをし、星さんのサポートをしながら2908.8mの西穂高岳に順調に到着。年配者を連れた4人組のパーティが西穂から

の下りにザイルを出し先行した。

後ろに続き岩を良く確認しながら慎重に間の岳を過ぎた。少し下って鎖を掴んでトラバースした。

その先で、先ほどの4人組が待機していた。「ザイルを使うので時間がかかるから先に行って下さい」と言う。岳沢方面に凹型の垂直の岩場に鎖が垂れていた。落ちたらアウトだ。星さんに、「何があっても鎖から手を離さないように」と声をかけ、星さんが一歩下がる毎に一歩下がり、鎖が終わった所でトラバースの岩場に身を寄せ、星さんが完全に下りるのを待った。



西穂でニッホット



星さんが降り切ってトラバースの岩場に足を一步入れるか入れないかの瞬間、「うわあ〜！」上から悲鳴が飛んできた。手足をバンザイしたような黒い塊が星さんの頭上を、岩に何回かバウンドを繰り返しながら遥か下に落ちていった。

何故かわからず、見ていた私も岩にバウンドするたびに悲鳴をあげていた。

300m落ちただろうか。2人組だったのか。連れの人が声をかけたが身動きしない。



Hさん、イイね〜！

何回も声をかけてやっと、「右腕を骨折したらしい」と返事が返ってきた。上にいた4人組がヘリの救助要請をしてくれた。

私たちは現場で目撃し、あわや巻き添えをくったかもしれないと思うとショック状態だった。星さんは足の震えが止まらずもう行けないと顔面蒼白。

私は、遭難者が生きていたことが確認できると他人事ながら安堵で涙が出た。



美しく険しい岩稜を上る



救助のヘリが飛来

行くも辛い。帰るも大変。そんな場所からでも帰ることにした。
そして、何処から落ちたのかと確認する。狭い岩の上では4人組がいるだけでも
きつい場所だ。岩の上を通らず、草付きに足を乗せてその拍子に抜けおちたらしい。
むき出しになった土が生生しさを伝えていた。

それから途中で気を鎮めながら、身体を暖めながら、きた岩峰を登り返す。
三島労山の芦川さんに会った。
二言、三言、言葉を返し別れる。
やっと、ジャンクションピークにさしかかる頃、ヘリの音が聞こえ救助していった。
ヘリが来るまで約1時間半掛っただろうか・・・。
こんなに時間がかかったんじゃ、助かるものも助からない事もあるかもね・・・と、
申しわけないが、一方的に思ってしまった。

ロープウェイを降りて、昼ご飯を食べて
さあて、お風呂は？
やっぱり、「新穂高の湯」でしょう。
此処は昔から、穂高を登った岳人が湯に浸かったと聞いている私も一度入りたいと常々思っていた。
行ってみた。橋の上から覗いてみると、男性6人が既に入っている。
どうしようか・・・迷っていると又、男連れ



7人が来た。やっぱり止めようと他の場所へ移動。そして、折角だからと高山の市場まで足をのばし、夜遅くなったので「あさぎり道の駅」でテント泊。寒くて寒くて辛かった。

相方の事故は辛い。事故の実際を目の当たりにして実感した。暫くは人を誘うことは出来ないと思った。今回は自分にも考えさせられる出来事に遭遇した。



天空のピーク